

日本名所風流千景集

卷ノ五

中村俊定文庫

文庫 18

923

5



武蔵國調布玉川、奥秋川、景



七(木)の

河をよと

限りや

多摩郡

武伊原

文神去画

渡邊柳行

武蔵國調布玉川

中村俊定文庫

卷ノ五

四〇

越中下新川郡泊浦有磯海景



渡む瀬を  
夜ふく  
照らす  
草の如  
子厚

武藏国南埼玉郡慈恩寺内弁天社景



松風中  
波の  
珠我



多し香も花も一と

お花の香も花も一と

桃壺

水



花も香も花も一と

一本たのむ

櫻の孔

随福

自画

甲斐国北都留郡大原村椽橋之景



宇りりも  
 工々  
 椽下の  
 あり月  
 大弋

卷之三

加賀国鶴来町金剣神社境内天通真名井之絶景



木のる  
 はま丹  
 涼し  
 神の池  
 多山園山

卷之三



松琴寫

讚南

詠有明濱

在讚岐國豊田郡觀音寺村

八幡祠西數步有岩殿石名象鼻從此望  
 有明濱一目十里沙色如霜雪風景太奇  
 蓋播州舞妓濱之景亦不讓於此云

石巖如象鼻晴日此登臨舟楫煙光薄能  
 雪色深衆鴉不易別聲鷺去難尋  
 好借丹青手更求騷客吟

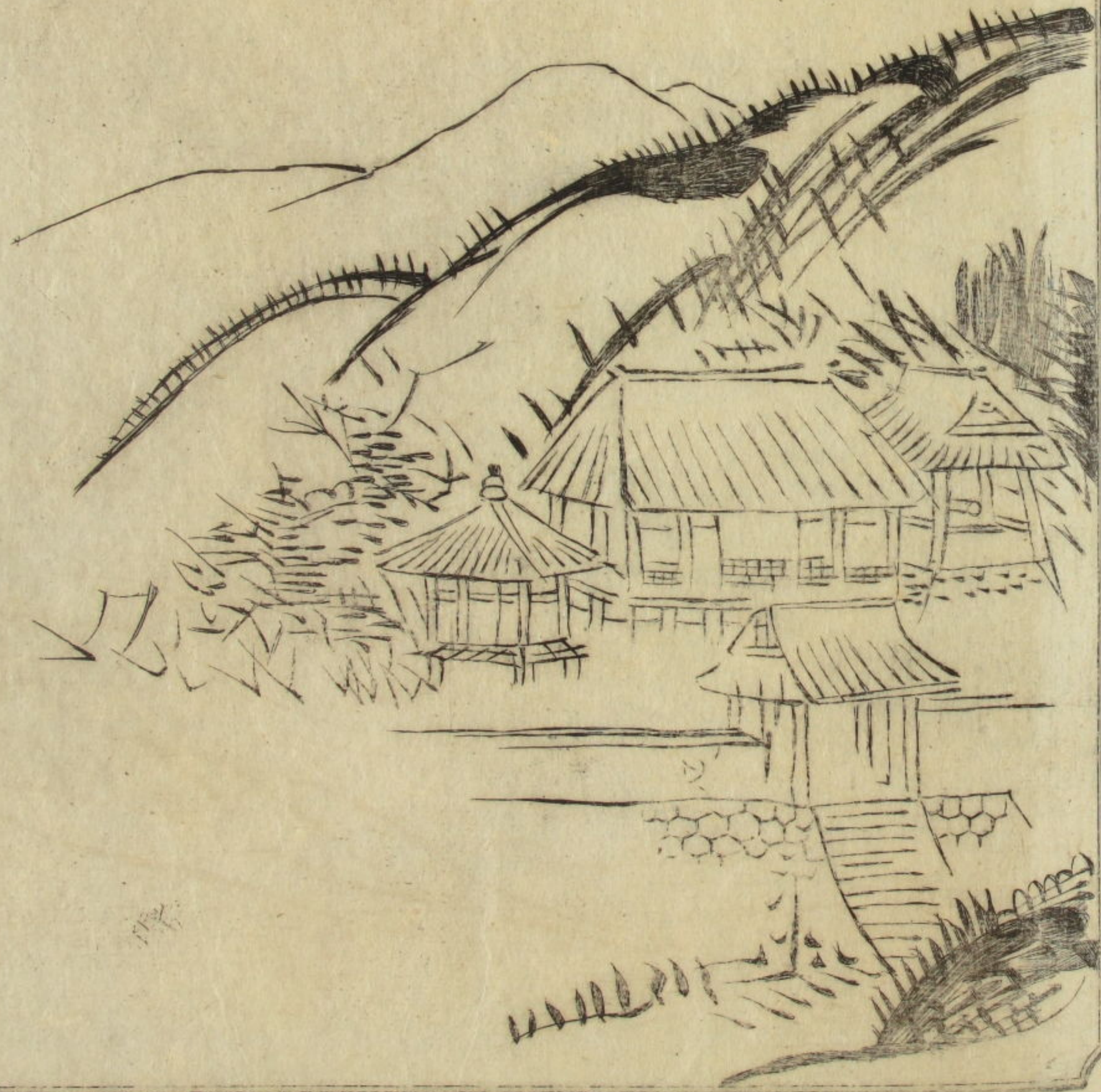
明治廿三庚寅秋日

讀物處士松琴西廬

讀南

鐘晚寺樂長内、景八湖遠

明  
も小  
遠  
あふる  
口離山



景風 / 川田立和大

推  
れぬ  
移  
の  
り  
や  
立  
田  
山  
霞  
外





神陰のほれて  
 玉の水  
 百生



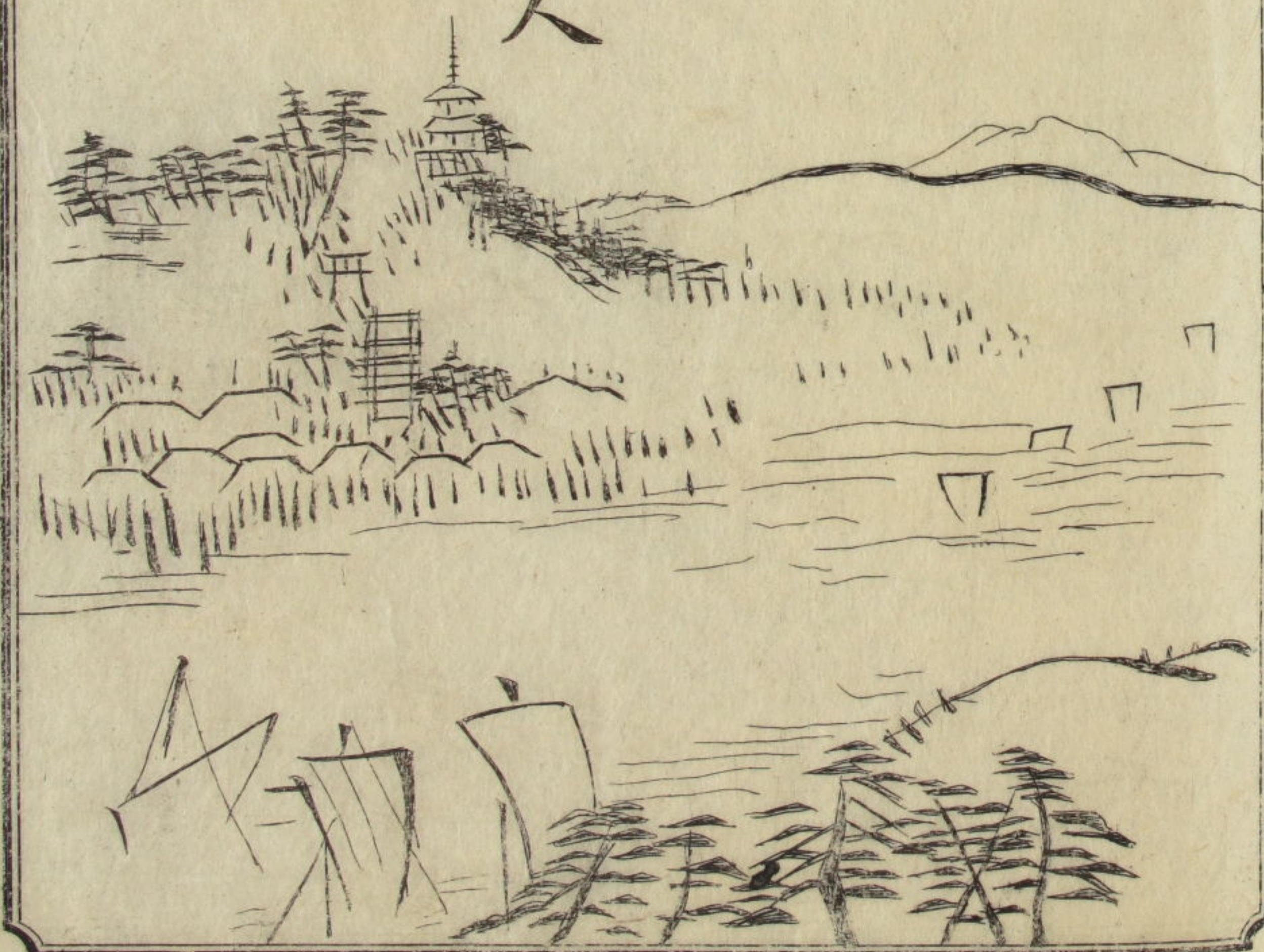
清きうららの  
 まくろや村の月  
 栄友



東洋の見えり  
 廣し権柴野  
 一々  
 邂逅ふ言ひ  
 是あり権柴の  
 其権  
 笠脱て暑さ  
 已する木立可れ  
 一羽卒  
 明月やあはれ  
 言る枝権柴野  
 柳枝  
 見るはてハ権柴も  
 浸りて海涼し  
 一声



四海皆  
 皷たよ  
 大なる簾  
 初日の出  
 一人  
 眼も留るし  
 物も  
 あり  
 物突り



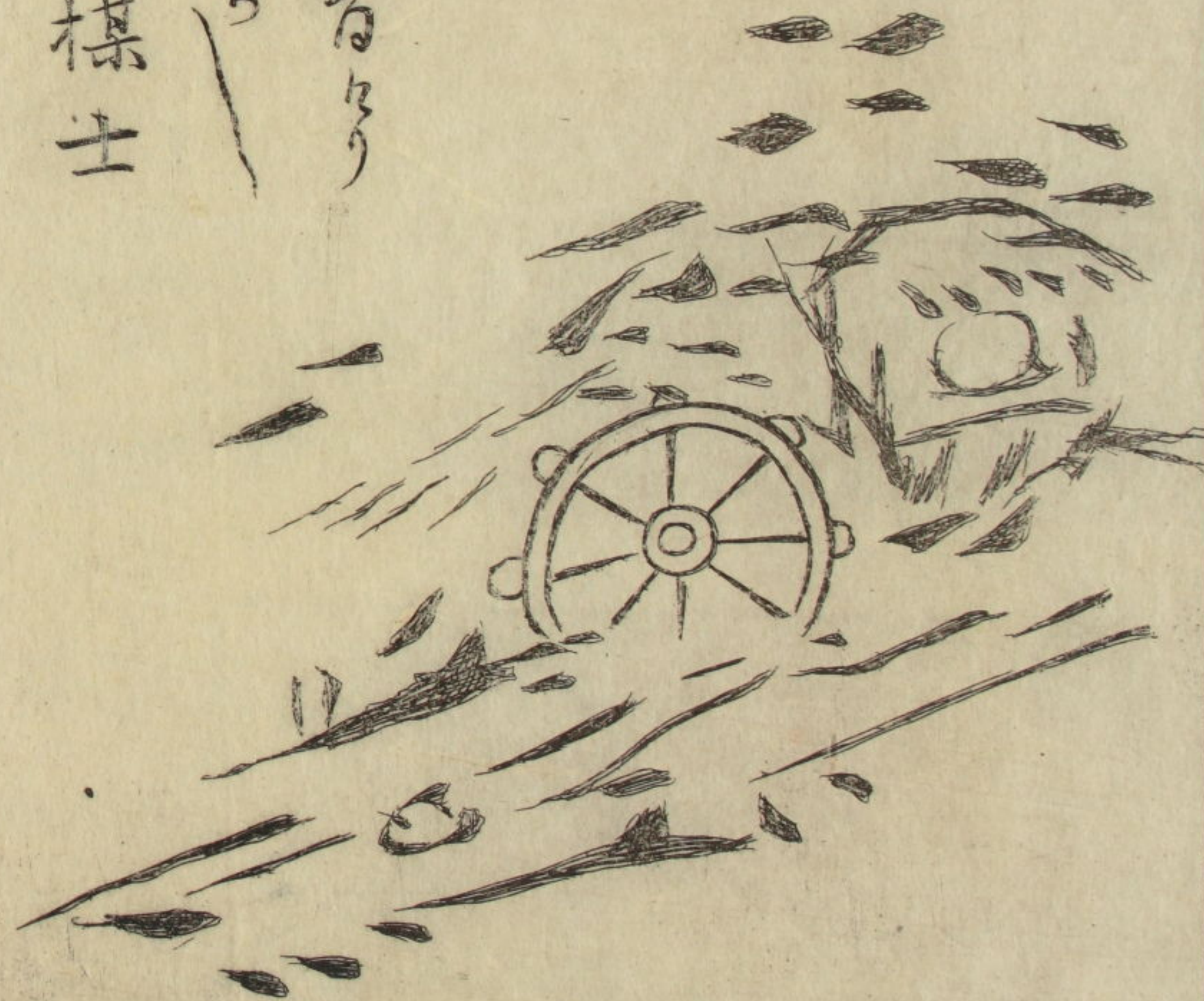
阿波國馬郡山端村西福寺之絶景

やわらか  
夜は明か  
一石の  
まな



阿波國馬郡貞光村水綿川名物之夕嵐

木も草も  
音も  
まはら  
謀士



僧眠石

珠  
あすす家

うたを  
結ぶ

梅の  
知り  
草



見沼井ノ流る  
あのみま  
清んを  
照らす  
素山

古の  
見沼  
うたを  
結ぶ

素山

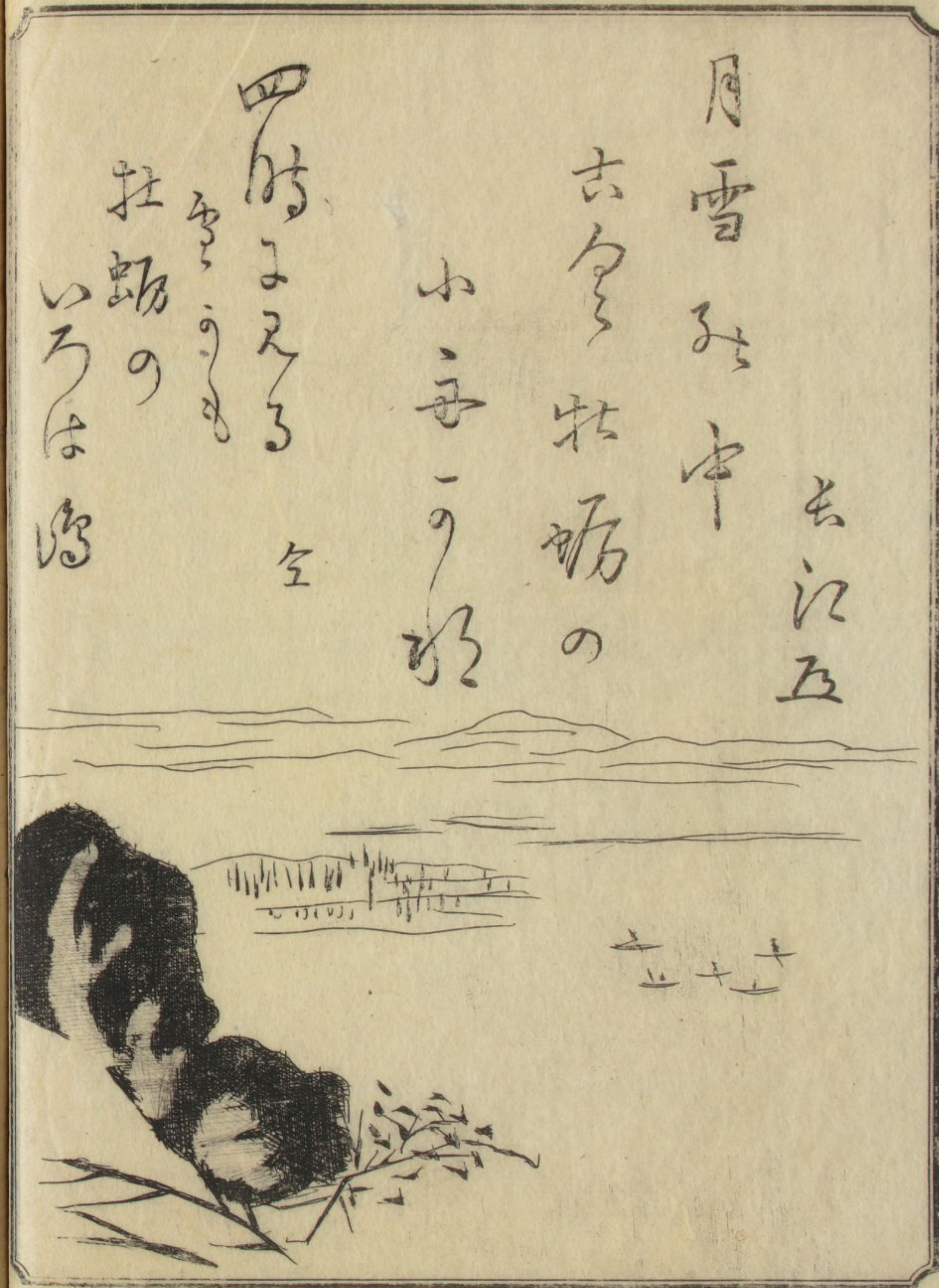
素山





石のつこの  
 字を捨て  
 見るや苔のむじ

昔々の  
 石生



月雪み中 去江互  
 古々々 社嶼の  
 小舟一り 鳴  
 甲時子えりる 全  
 社嶼の  
 いろは 鳴

卷五

百七

次三の石  
 よるの石  
 波の石  
 石の石  
 石の石  
 石の石  
 石の石  
 石の石

里崎馬



梅ノ石

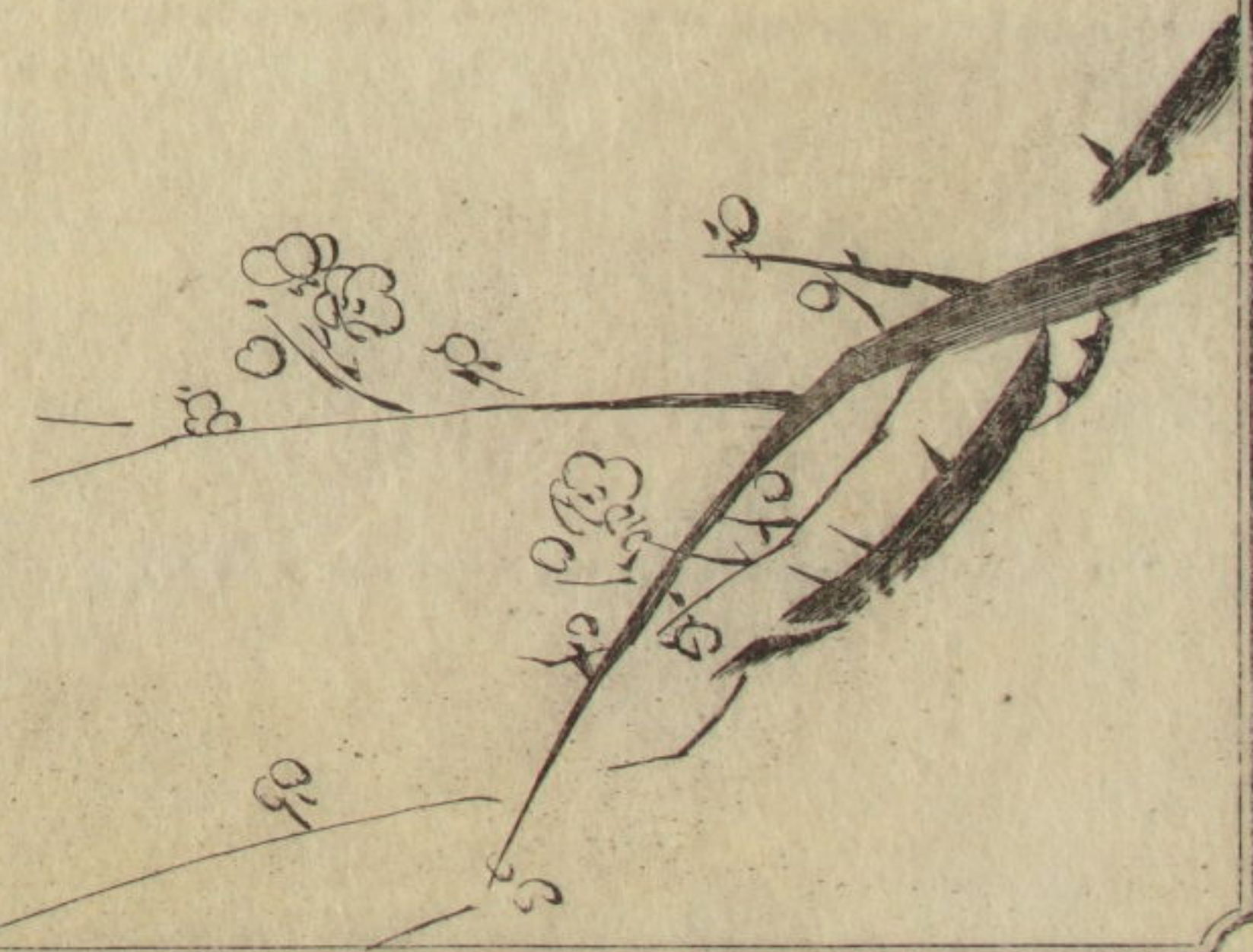
やしの石

末振り也

尾の梅

七十二歳

羽卒嵐



豊後國分郡河原内村天面山之景



少  
少  
便りやそり様

榮白筆

卷五

豊後國分郡八幡宮ノ景



楠  
源一き宮居

素菴

卷五

攀危崖容四顧  
澄山深海香艸  
雲霧白岩固  
搖幄人煙

香谷

天風吹下一仙宮  
峯雪吞煙息石間  
南北東西望無限  
依稀二十四州山



也福祥相攝  
亦悠悠平  
流仍清舞一  
如涼

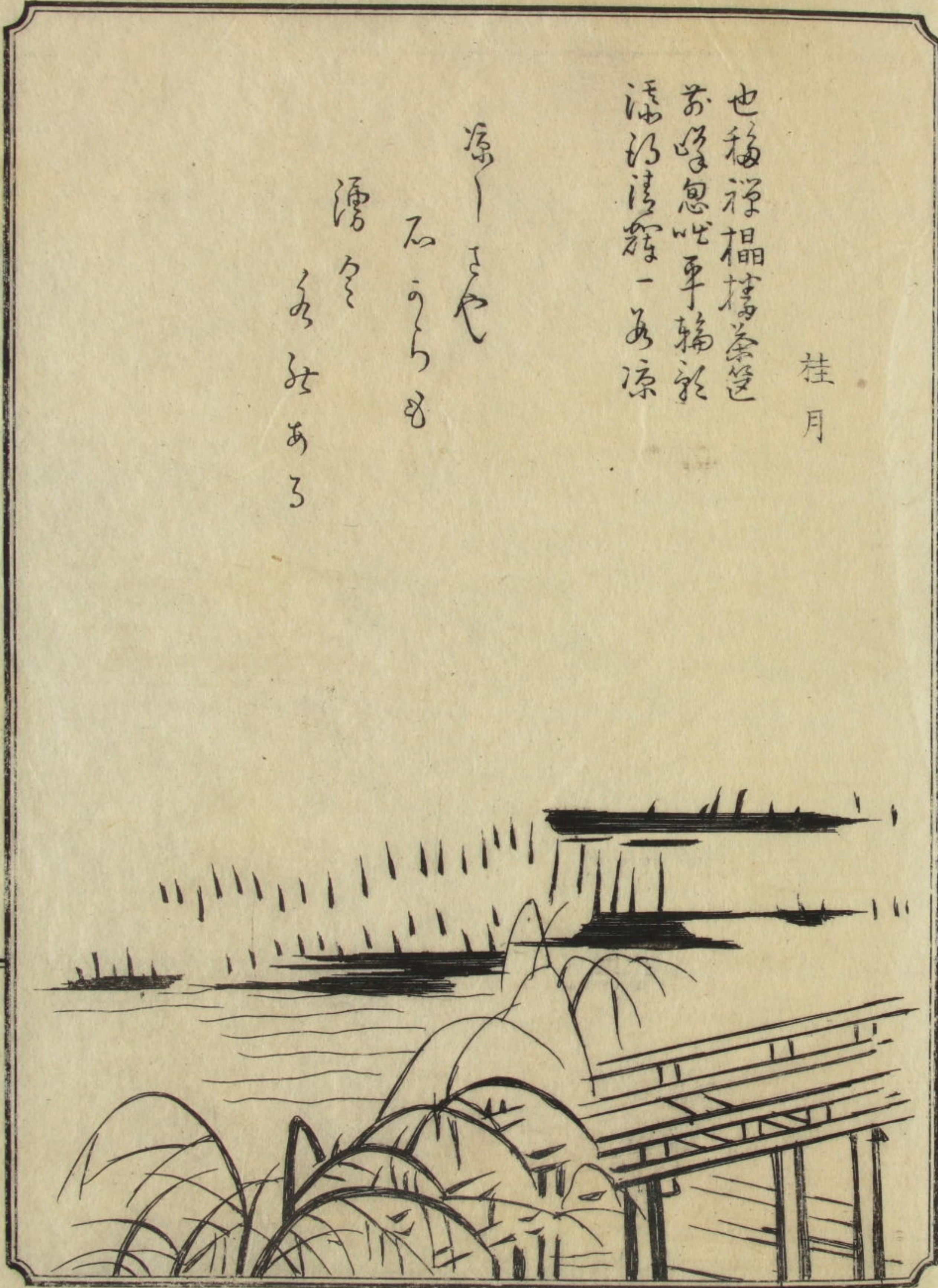
桂月

源一

石

源々

くみあり



清流

ささるのこ

知れず

坐し

と案

さあろり



棋歌

鴨啼や

ぬる濡れ

暮るる芦

少流舟

刀根の流舟や

何とさす

鶴汀

一翠

床下は

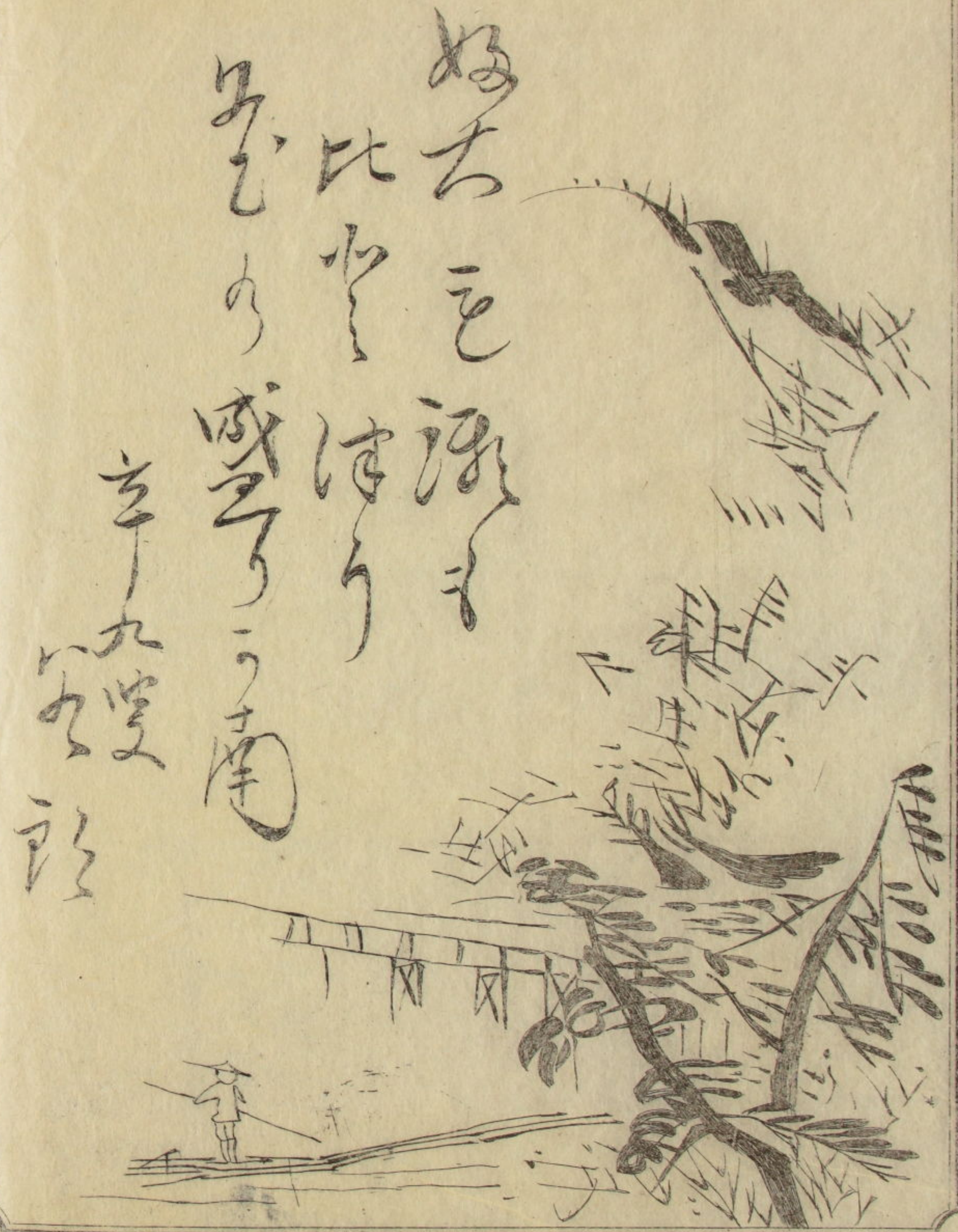
船のあはれや

小夜衛





京都市西渡月橋ノ景



好古毛源  
 比中津  
 是乃成云  
 幸一丸堂  
 以之  
 記

越後南原郡如塚ノ里翠蓋松



空海  
 招  
 三

伊加國開戶山ノ景



湧り出

二丁目

一丁目

木下

二丁目

撰津國河口港口ノ景



砂川

二丁目

一丁目

音

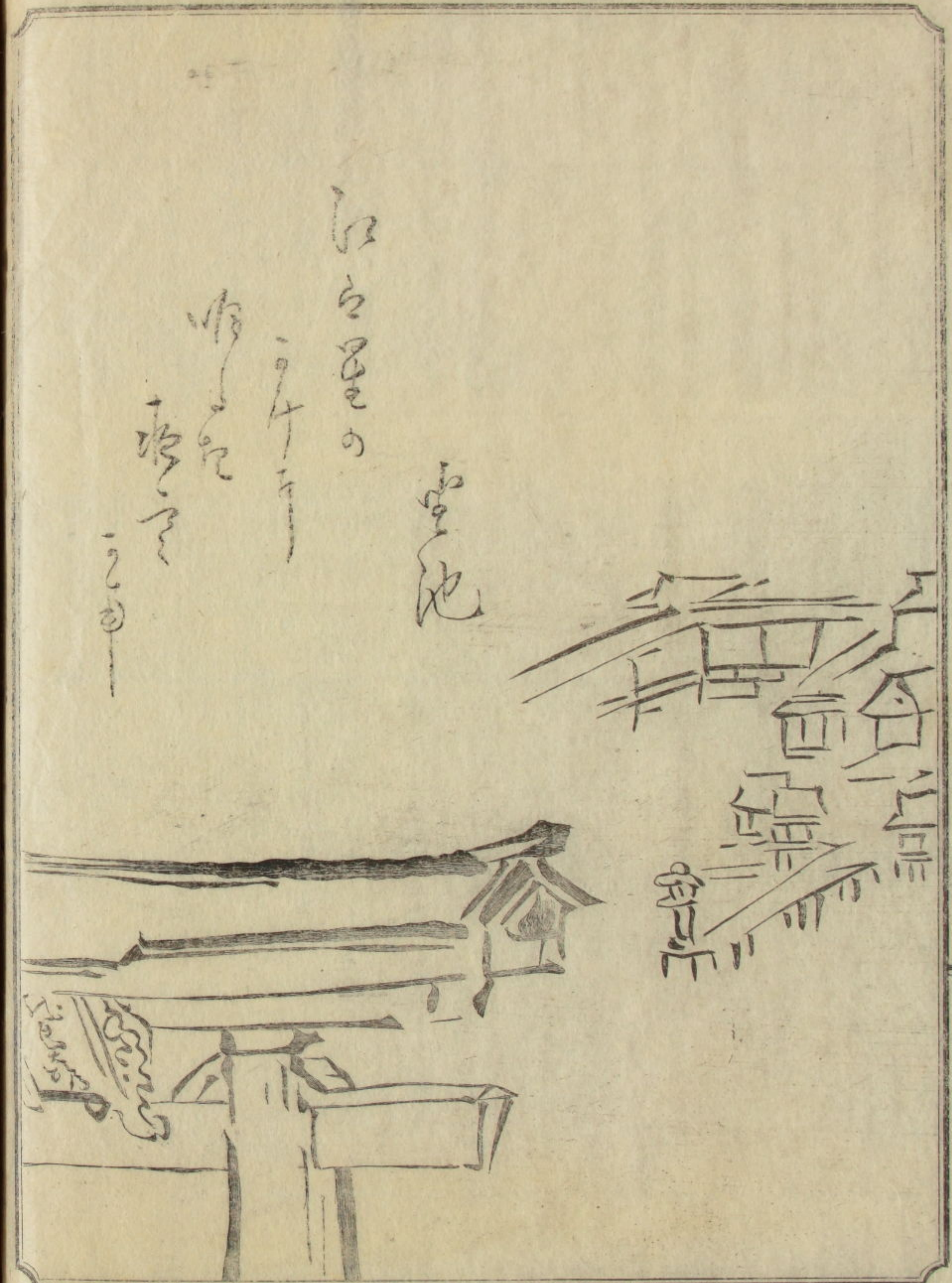
南

景 / 湖進精籠士富国斐甲



芳名やつまなれ  
 水舟そそく  
 名やゆめらん  
 然王  
 静

景 / 島宮国藝安



江の島の  
 一軒  
 池  
 一軒

巻八五

上野碓氷嶺ハ景



上野の  
あまの  
お茶  
あまの  
あまの  
あまの

駿河三国保松原之絶景



和泉  
松原  
三国  
保松  
絶景

卷八十五

信濃國更科山田毎月



濁りぬる水の  
まことそ秋の月  
極孫

鎌倉江之島ノ景



あつた  
河子  
源  
その月  
芥舟

日 女 祭  
福 兎

あまのこ  
あり  
まじ



白 吟 吟  
あまのこ  
又  
堤

二見浦

岩 子 け や 秋 風  
あまのこ

日 の 影  
あまのこ  
梅 の 五 葉

あまのこ  
あまのこ  
あまのこ

あまのこ  
あまのこ  
あまのこ

其の身こゝろのやうき  
少可いの身こゝろのやうき

野の閑あひだのちうき  
早あはれえりり

秋のあきのこゝろのあはれ  
木きのこゝろのあはれ

月つきのこゝろのあはれ  
際ぎはのこゝろのあはれ

あひだのちうき  
あはれえりり

山やまのこゝろのあはれ  
水みづのこゝろのあはれ

あひだのちうき  
あはれえりり

山やまのこゝろのあはれ  
水みづのこゝろのあはれ

秋あきのこゝろのあはれ  
日ひのこゝろのあはれ  
山やまのこゝろのあはれ  
水みづのこゝろのあはれ

河成深川  
市のふりつる  
鮎の後

つるや菊子  
海のうらみ

白松  
松  
松

山崎  
山崎  
山崎

山崎  
山崎  
山崎

和角  
和角  
和角

和角  
和角  
和角

秋の夕陽の傍より  
山崎

松  
松  
松

松  
松  
松



はあちまへ  
秋のつらさや 一腹  
跡の善門品

名目の  
玉庫崎  
船旗

うき世の珠母や  
あつた山 穂侍

品切  
春海苔のうづり  
もはし  
日 輝か笑

弱  
あつた山  
信 つかせ女

ふゆの園  
花の明柳  
もはし  
おまへ  
中分

雲境  
あつた山  
おまへ  
本風

堀印村  
堀印村  
あつた山  
あつた山  
あつた山

上野の縁屋  
花のつらさや  
あつた山  
可文

あつた山  
あつた山  
あつた山  
あつた山

龍子ノミ

秋の海や浪雪の  
浪のしら

芦荻

永代橋

名目や佃の沖ふ

あゝあゝ

中巻

川原橋

押合をあらわ

涼や橋の上

枕結

まゝり井

あゝあゝ

冷々夕世の

梅

さるや衣笠山

しつと月

その

和国

船の帆のほろく

ふしきつる海

木風

牛崎えむけの神や  
梅り和

梅

梅の動のぬきあり

津阪山

丹若

川原神社

花をまらあゝあゝ

その

神り

稲雄

三井ちの鐘の音  
心ゆくを

松崎

少後社 如風  
社う陸生れ

やうき  
物さす

清くち

銅の乃きまぬ意

冷し花の雲  
花破

二条新宮

清代あれや品

稻見

あふり  
列る福あや  
乾らり舞の虫

梅を重

一丁あや

堀のさ場

